

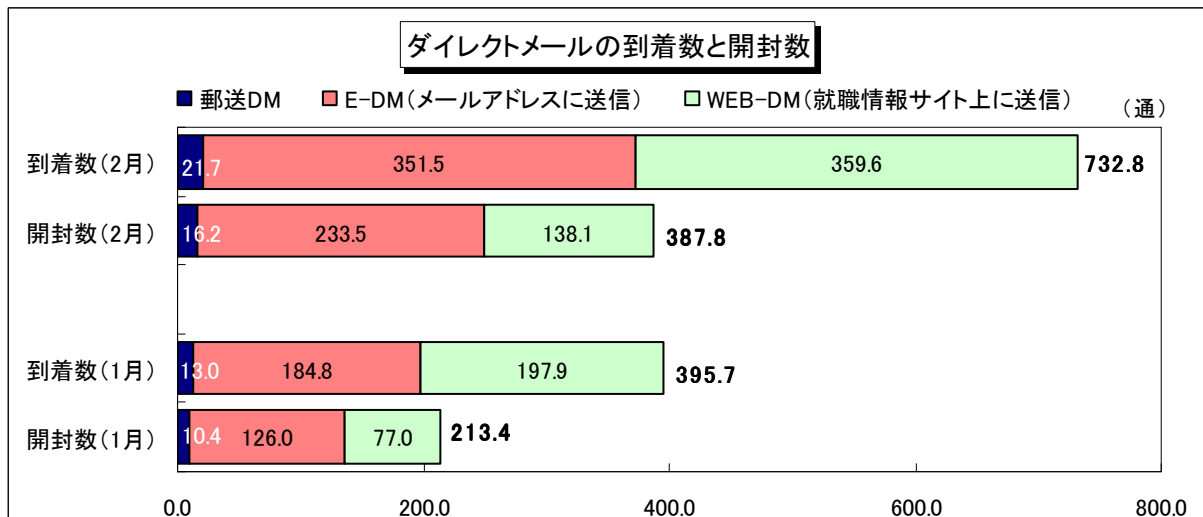
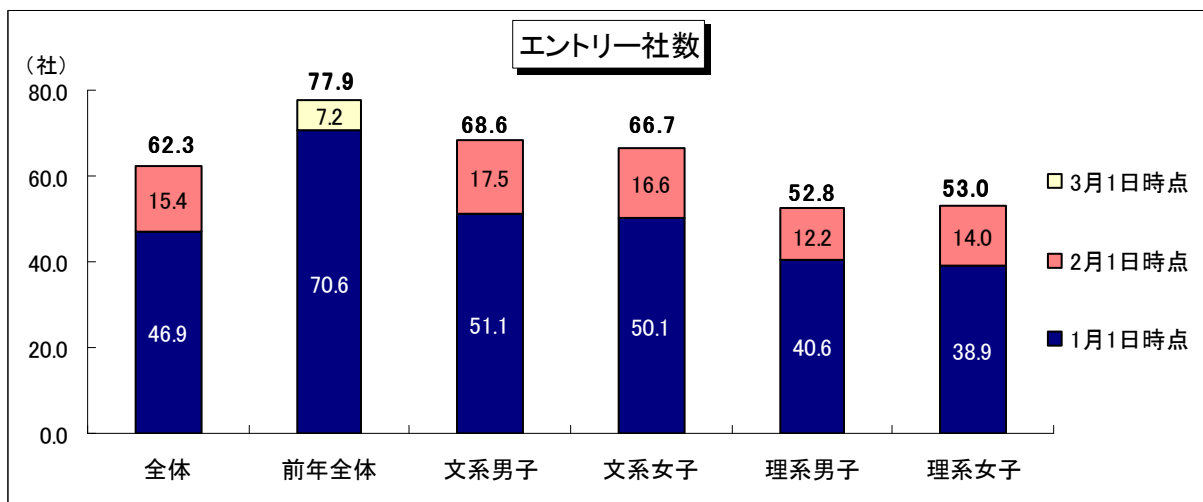
第2回調査

2月1日現在の就職活動状況

1. 2月1日現在のエントリー状況

就職活動スタートから2カ月あまり。学生の就職活動はどのように進んでいるのかを、まずは先月調査(1月1日)からの動きを中心に見ていこう。2月1日現在、企業への平均エントリー社数は62.3社。先月調査は46.9社だったので、この1カ月間の増え幅は15.4社。前年度調査は2月に実施していないため社数の同期比較はできないが、多くの学生はまだまだ新たな企業へと選択肢を広げている段階にあるようだ。今後もこのハイペースが続けば、前年度モニターの3月時点でのエントリー社数(77.9社)に匹敵する数になる可能性もある。

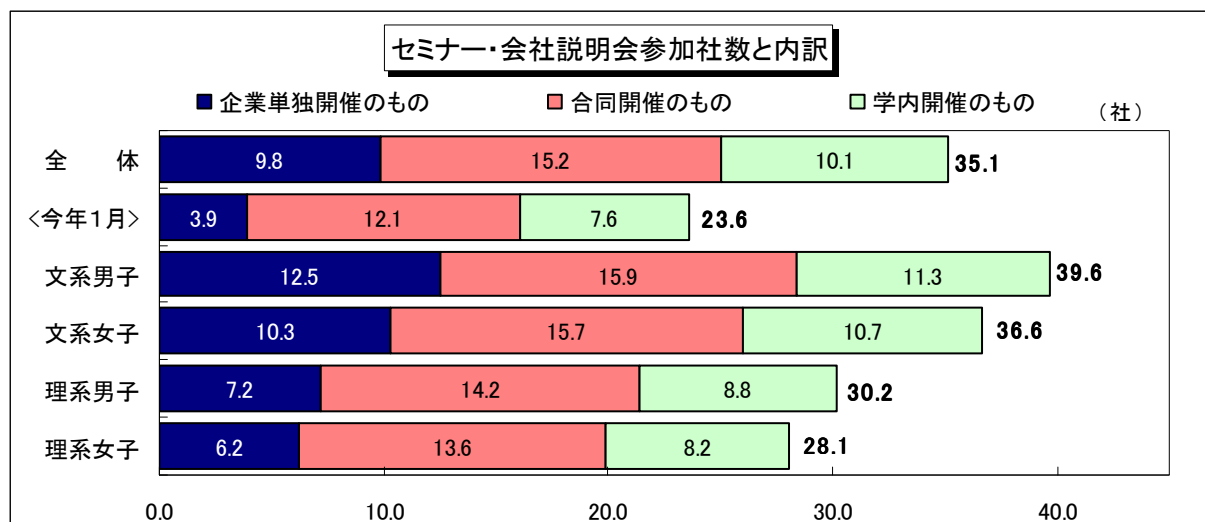
一方、ダイレクトメールの到着数は平均732.8通。先月調査時点の395.7通から、およそ2倍となった。エントリー受付開始直後の12月の受付数が伸び悩み、1月にダイレクトメールを配信した企業もあり、そうしたテコ入れが一人あたりのエントリー数の増加にも結びついたのでと見られる。



2. セミナー・会社説明会への参加状況

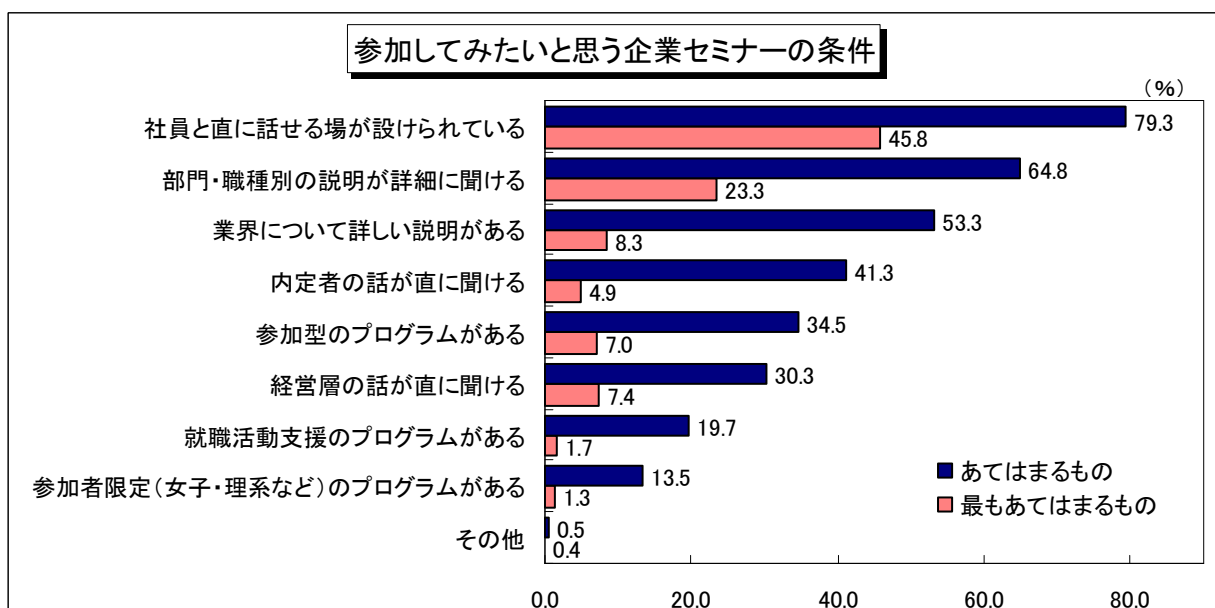
セミナー・会社説明会の平均参加社数は35.1社。先月調査の23.6社から、この1カ月間で11.5社増えた。とりわけ企業単独開催のものが、3.9社から9.8社へと大きく伸びているのが目立つ。就職活動初期は効率を優先して合同セミナーに足を運ぶ学生が多かったが、合同セミナーの開催ラッシュが一段落し、学生の活動が単独セミナーへと徐々にシフトしている様子がうかがえる。前年度モニターの4月1日時点での企業単独セミナーの平均社数は22.6社。選考本番の4月までに、追いつくだろうか。

「参加してみたいと思う企業セミナーの条件」を聞いたところ、「社員と直に話せる場が設けられている」「部門・職種別の説明が詳細に聞ける」など、企業（業界）研究に直結する内容が上位に挙げられた。参加型や就職支援といった気軽に参加できるプログラムよりも、シンプルに「どんな会社、仕事なのか」を知りたがっているようだ。就職戦線のスタートが2カ月遅れ、選考開始までの情報収集期間が限られていることも影響しているのだろう。



合同開催・学内開催参加回数／平均

	全体	今年1月	文系男子	文系女子	理系男子	理系女子
合同開催セミナーへの来場／平均	3.8	3.0	4.3	3.8	3.4	3.4
学内開催セミナーへの来場／平均	4.9	3.6	5.5	5.1	4.1	3.9



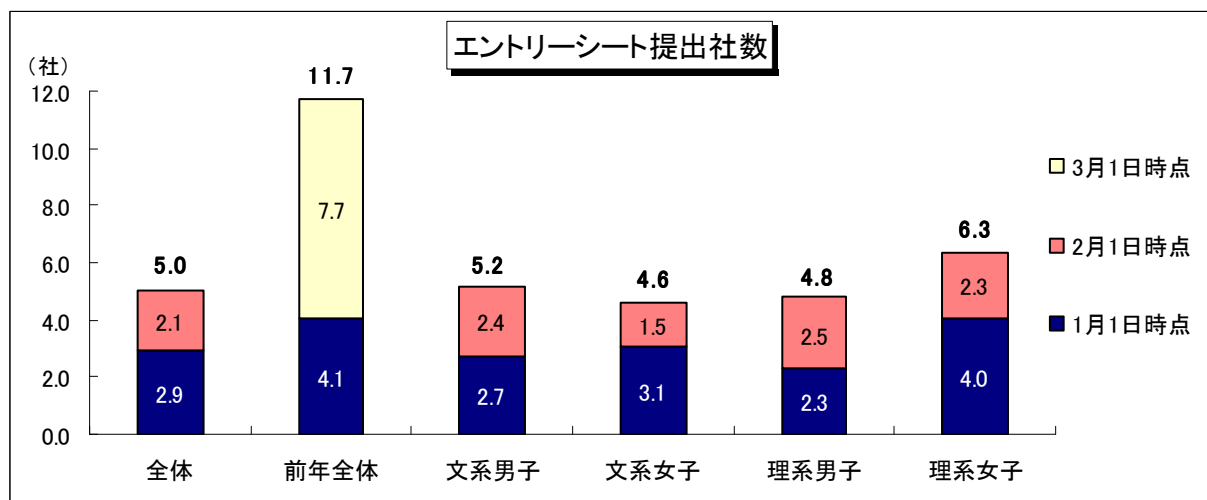
3. 選考試験への参加状況

2月1日現在で、企業にエントリーシートを提出した学生は全体で73.2%。先月調査（33.0%）から一気に40ポイントも増えた。1月以降、企業側のエントリーシート受付が始まってきた様子がわかる。但し、提出社数を見ると1カ月間に増えた数は2.1社にとどまり、多くの学生にとってエントリーシート提出の本番はこれからだ。

一方、選考試験の受験経験者もこの1カ月で大きく増えたが、一人あたりの平均受験社数はそれほど伸びていない。選考を始めた企業は、ごく一部に限られているようだ。

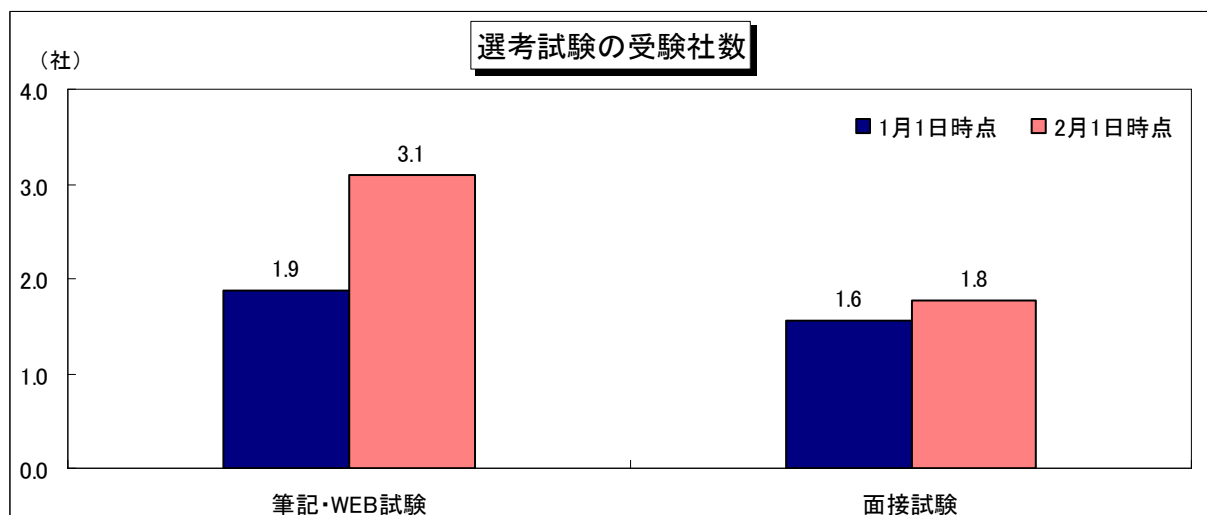
エントリーシート提出の有無

	全 体	今年1月	文系男子	文系女子	理系男子	理系女子
提出した	73.2	33.0	72.7	76.8	69.2	75.2
提出していない	26.8	67.0	27.3	23.2	30.8	24.8



選考試験の受験状況

	全 体	今年1月	文系男子	文系女子	理系男子	理系女子
筆記・WEB試験を受験した	66.6	28.1	71.1	67.8	62.1	59.6
面接試験を受験した	28.8	7.6	35.3	27.7	22.9	24.1



4. 現時点での志望職種

2月1日の時点で志望職種を決めている学生は89.6%と、約9割に上った。第一志望の職種を見ると、文系は男女とも「営業関連」がトップ。但し、男子が52.0%と過半数に達しているのに対し、女子は26.1%で、他に「事務・管理関連」25.8%、「企画・マーケティング関連」24.0%と分散している。一方、理系では、男女とも「研究・開発・設計関連」が最も多く、3割弱が選んでいる。約9割が「決めている」とは言え、人気はあっても「企画・マーケティング関連」などのように実際の募集は少ない職種もあり、今後就職活動が進めば、変化していく可能性は十分ある。

志望職種 (第1志望)

(%)

文系男子		文系女子		理系男子		理系女子	
営業関連	52.0	営業関連	26.1	研究・開発・設計関連	28.3	研究・開発・設計関連	29.1
企画・マーケティング関連	14.5	事務・管理関連	25.8	IT・ソフトウェア関連	20.3	企画・マーケティング関連	13.4
事務・管理関連	10.2	企画・マーケティング関連	24.0	生産・製造・品質管理関連	18.5	営業関連	11.9
専門・スペシャリスト関連	6.2	流通サービス・販売関連	6.2	営業関連	8.6	建築・土木設計関連	11.9
クリエイティブ関連	5.2	専門・スペシャリスト関連	5.9	建築・土木設計関連	8.0	IT・ソフトウェア関連	11.2
金融関連	4.0	IT・ソフトウェア関連	4.5	企画・マーケティング関連	5.5	生産・製造・品質管理関連	7.5
流通サービス・販売関連	3.3	クリエイティブ関連	3.6	専門・スペシャリスト関連	3.4	専門・スペシャリスト関連	6.0
IT・ソフトウェア関連	3.1	金融関連	2.4	金融関連	2.8	事務・管理関連	5.2
生産・製造・品質管理関連	1.0	生産・製造・品質管理関連	1.2	事務・管理関連	2.2	金融関連	2.2
研究・開発・設計関連	0.2	研究・開発・設計関連	0.3	クリエイティブ関連	1.8	流通サービス・販売関連	1.5
建築・土木設計関連	0.2	建築・土木設計関連	0.0	流通サービス・販売関連	0.6	クリエイティブ関連	0.0

5. 評価してもらいたいこと

就職活動で企業にぜひ評価して欲しいことを聞いた。選択肢から5つまで選んでもらったところ、下表のような順になった。「チームワーク力」が43.8%と最も多く、「主体性」42.0%、「達成志向」33.6%などが続く。文理男女といった属性での大きな差は見られない。

企業に評価してもらいたいこと

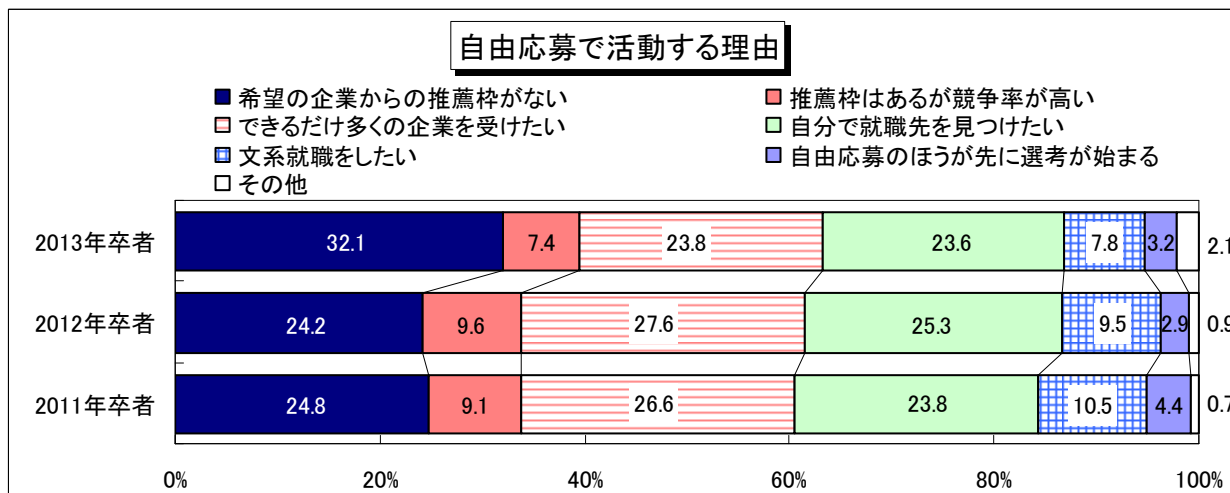
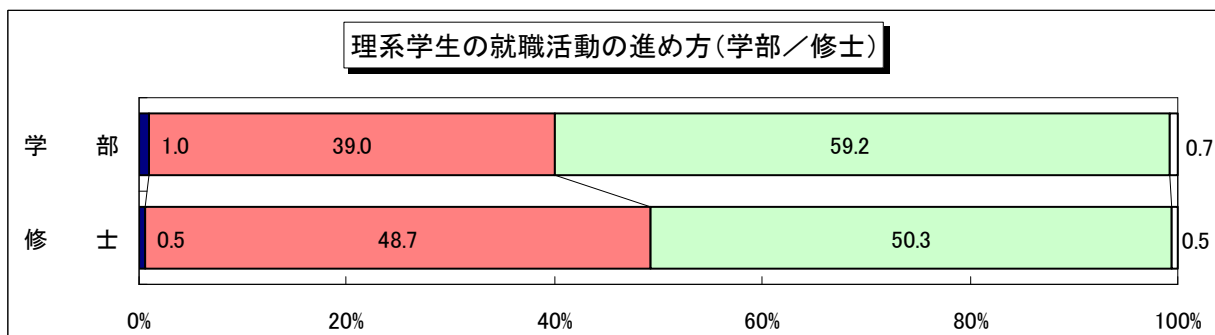
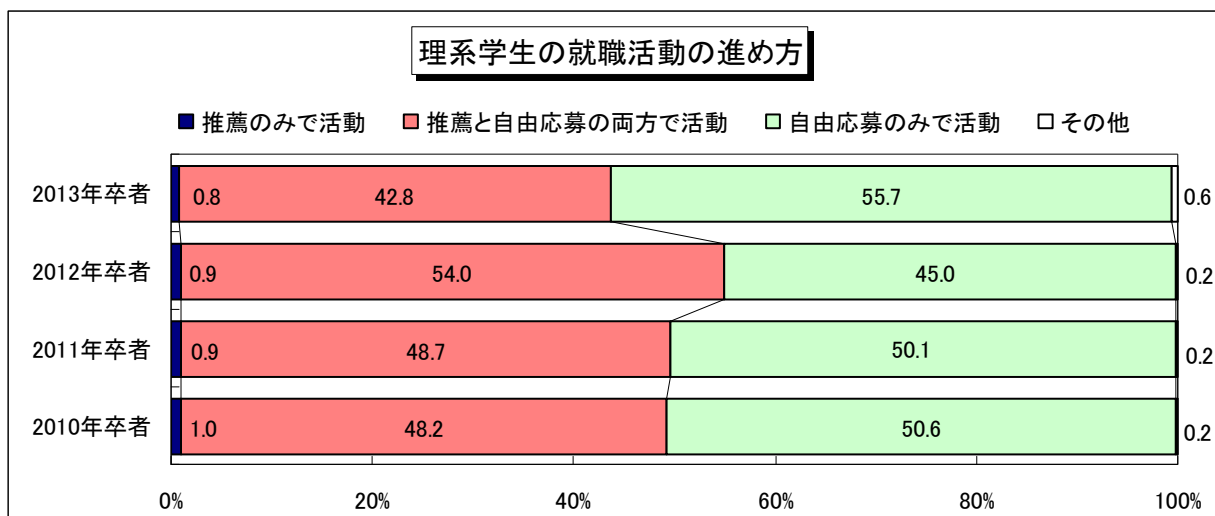
(%)

	全体	文系男子	文系女子	理系男子	理系女子
チームワーク力	43.8	45.2	45.9	40.4	41.8
主体性	42.0	46.5	42.5	39.0	32.6
達成志向	33.6	29.1	39.8	32.5	34.8
柔軟性	33.4	34.1	35.9	29.7	34.0
状況把握力	29.5	30.6	27.7	28.0	34.8
分析的思考力	28.5	27.9	21.6	36.4	29.1
規律性・倫理観	27.9	27.9	25.3	29.4	31.2
明るさ	25.9	22.7	30.1	21.8	36.2
学習力	23.9	21.5	23.5	26.6	26.2
計画力	23.6	22.7	23.0	24.9	25.5
創造力	21.4	19.4	20.8	24.6	22.0
ストレス耐性	21.1	21.9	20.8	21.8	17.7
課題発見力	19.7	19.4	25.1	16.9	12.8
説明力	12.8	17.6	11.9	10.5	5.0
異文化対応力	11.7	11.6	19.0	5.9	7.1
交渉力	10.6	16.3	7.4	7.6	7.1
基礎学力	10.5	8.1	10.8	12.7	12.8
専門知識	7.5	5.0	3.2	15.0	9.2
語学力	5.7	6.4	6.6	3.7	5.7
その他	1.4	0.6	2.4	1.4	1.4

6. 理系学生の就職意識

理系学生に対し、就職活動の進め方を聞いた。前年度調査で「自由応募のみで活動」が6年ぶりに半数を割ったが、今期は盛り返し、55.7%と約10ポイント増えた。ただ、これを「推薦人気低下」と見るのは早計だろう。併願を含め自由応募で活動すると回答した学生に、その理由を聞いたところ、「希望の企業からの推薦枠がない」が32.1%で最多だった。裏を返せば、「推薦枠があるなら推薦を狙う」ということだろう。また、「できるだけ多くの企業を受けたい」が23.8%で次点であり、受験機会を増やすことが内定への近道である、との考えは依然主流と言える。

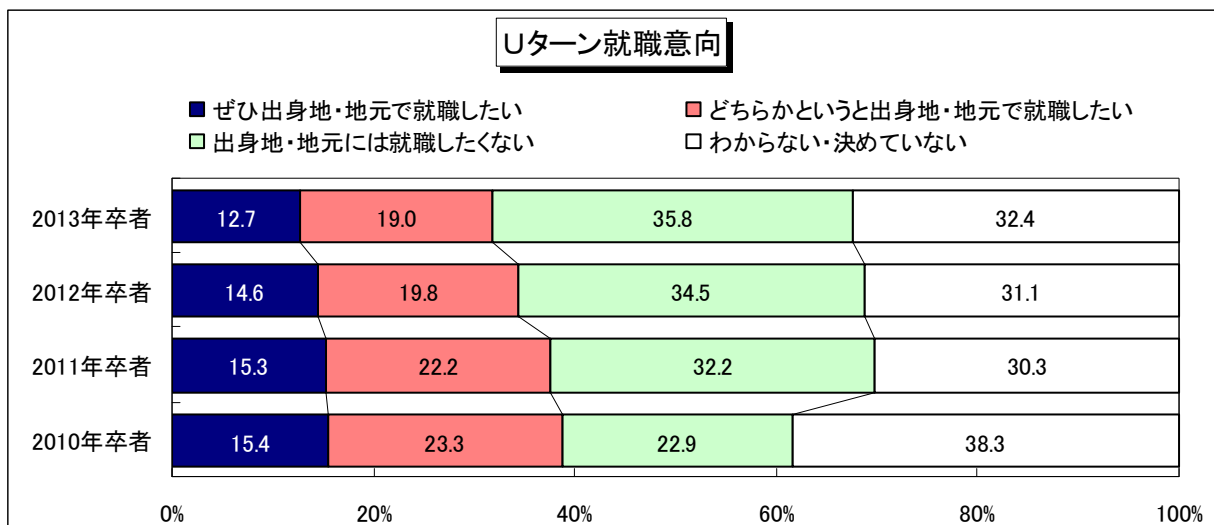
学部生に比べ企業からの推薦依頼の多い修士学生では、推薦利用予定者は49.2%に上る。



7. Uターン就職希望状況

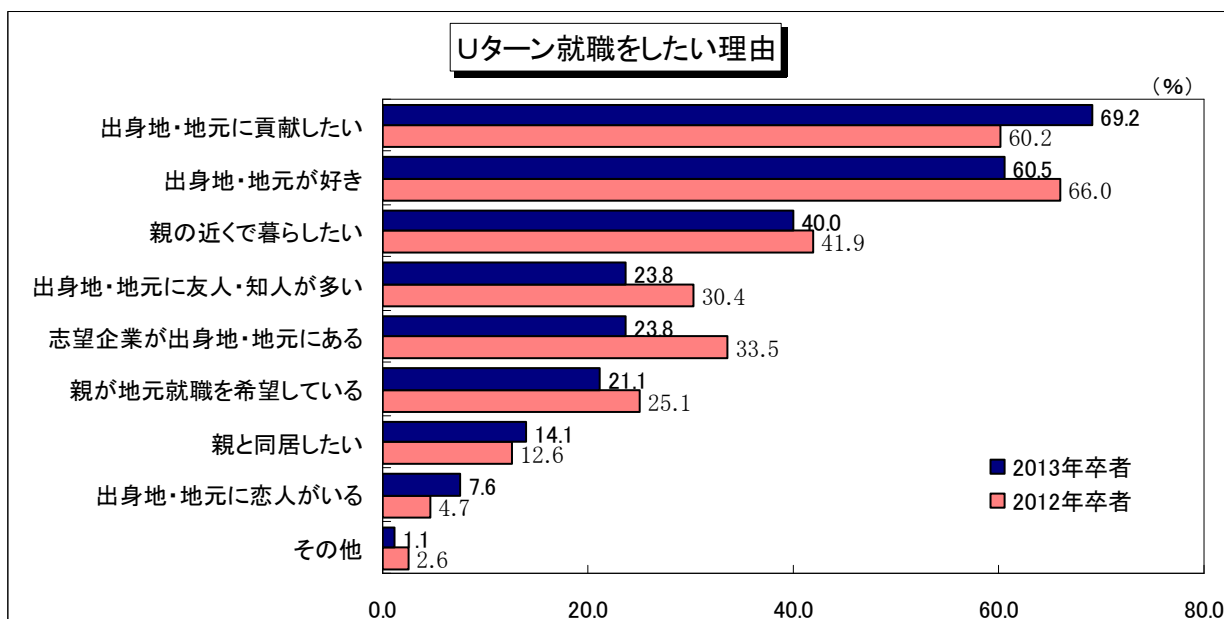
出身地・地元を離れて進学している学生を対象に、Uターン就職の希望状況を聞いた。「ぜひ出身地・地元で就職したい」12.7%と「どちらかというとなり出身地・地元で就職したい」19.0%を合計すると31.7%で、対象者の約3割にとどまる。最も高い中部出身者でも37.0%と4割未満。

Uターン就職希望者は、ここ数年減少傾向にある。地元に通きたい企業が少なくといった理由が主なものだ。一方、Uターン就職をしたい理由を見ると、「出身地・地元で貢献したい」が69.2%で最も多く、前年度調査で一番だった「出身地・地元が好き」と順位が入れ替わった。先月調査でも、就職先選びの指標として「社会貢献度が高い」が数字を伸ばしていたが、東日本大震災の影響からか、「貢献」を就職活動のキーワードにする学生が増えたようだ。



(%)

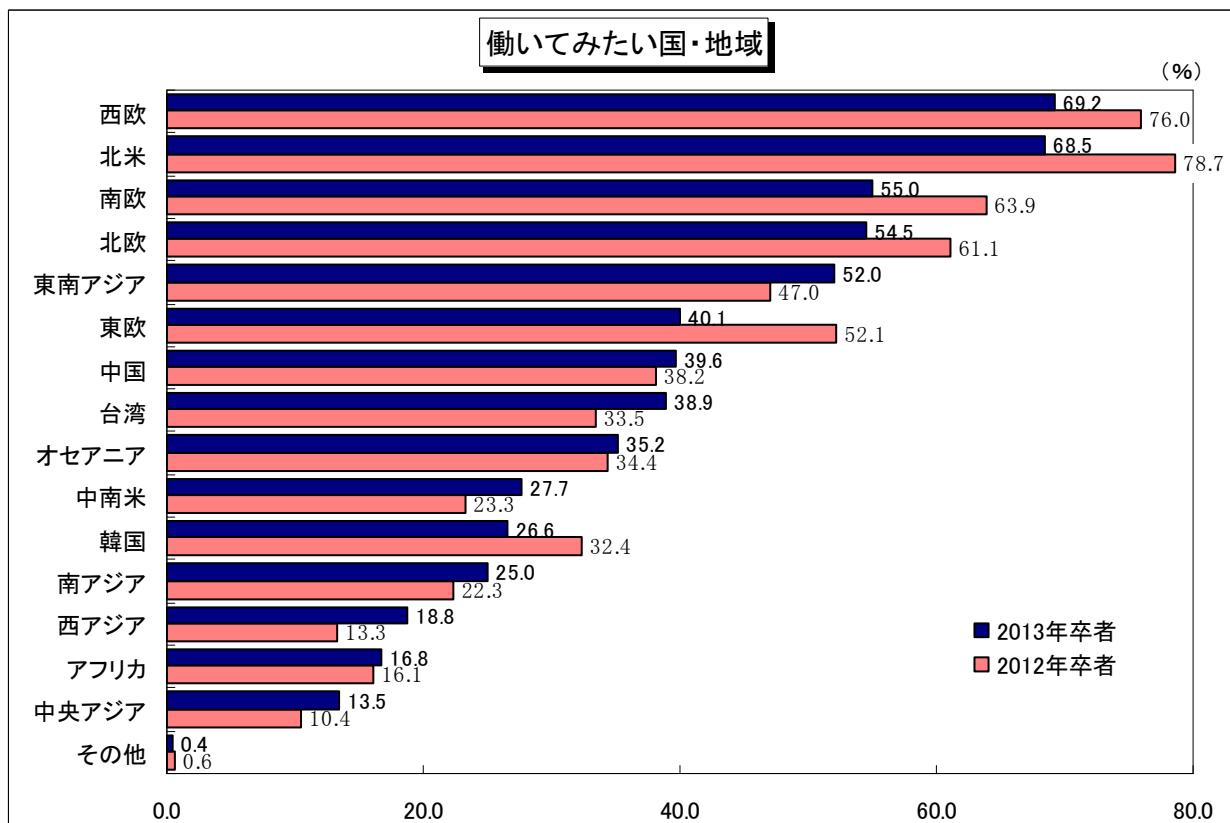
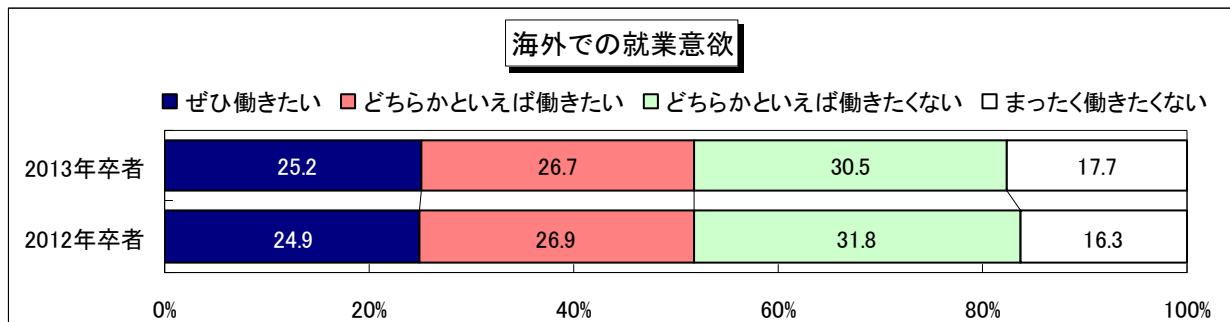
	北海道出身	東北出身	関東出身	中部出身	近畿出身	中国・四国出身	九州・沖縄出身
ぜひ出身地方・地元で就職したい	5.0	14.6	10.8	17.7	11.7	8.4	9.9
どちらかというとなり出身地方・地元で就職したい	25.0	20.8	16.1	19.3	24.7	12.0	21.0
出身地方・地元には就職したくない	45.0	37.5	38.7	32.0	31.2	39.8	38.3
わからない・決めていない	25.0	27.1	34.4	30.9	32.5	39.8	30.9



8. 海外での就業意欲

海外での就業意欲のほどを聞いてみたところ、「ぜひ働きたい」「どちらかといえば働きたい」の合計は51.9%と、前年度調査（51.8%）とほぼ同率だった。しかし、働いてみたい国・地域に変化が見られ、北米、西欧、南欧などの欧米が依然順位が高いものの、前年度より数字が下がり、逆に成長著しいアジア地域が軒並み増加しているのが目立つ。

海外経験の有無を聞いたところ、4割強が「海外に行ったことはない」と回答。海外経験のない学生の「海外での就業意欲」は約36%に下がり、経験の有無と関連があることがわかる。

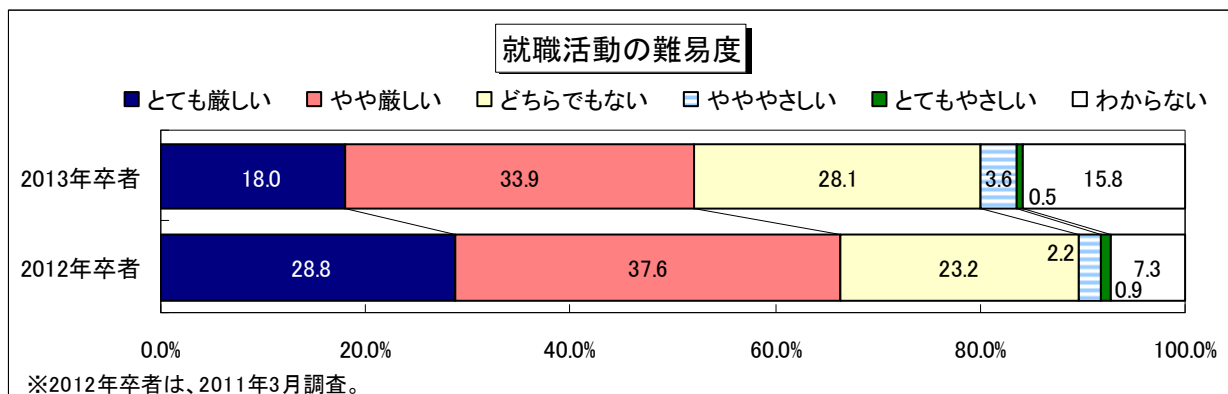


海外経験

	全体	前年全体	文系男子	文系女子	理系男子	理系女子
海外旅行	47.9	48.7	42.8	55.4	44.1	55.3
語学研修	15.9	15.6	15.3	24.5	6.5	18.4
その他海外研修(学術目的のもの)	5.2	1.8	3.7	5.5	4.2	12.1
長期滞在生活(帰国子女など)	2.9	3.1	3.3	3.7	1.7	2.1
交換留学	2.7	4.2	3.1	4.5	0.6	1.4
正規留学	1.5	1.9	2.5	1.8	0.6	0.0
その他	0.2	2.1	0.4	0.0	0.3	0.0
海外に行ったことはない	41.7	40.6	45.7	32.5	48.6	35.5

9. 就職活動の難易度

就職活動開始から2カ月あまり経った時点での就職活動の感触を聞いたところ、「厳しい」と感じる学生は51.9%と、半数を超えている。しかしながら、前年度に比べ割合が大きく減っている。一方、「わからない」が15.8%ある。前年度調査は3月に実施した数字なので単純に比較はできないが、2月時点では、厳しさを実感できていない学生も多いのだと思われる。面接もまだ本格化しておらず、冒頭に見たように平均700通を超えるダイレクトメールが届いている状況である。この指標は3月にも調査する予定であり、数字の推移を見守りたい。



■「とても厳しい」「やや厳しい」

- 実際に就活が始まって2カ月がたち、エントリーシート締め切りが迫っていたりと忙しい日々を過ごしているのですが、やはり時間が圧倒的に足りないと思います。 <文系男子>
- 就職活動が短期化したことで、学業との両立が難しい。テスト期間であるにもかかわらず、説明会が多く、説明会に参加しないと選考が進まないという企業もあるので本当に辛い。 <文系女子>
- 説明会や選考の日程がかぶってしまい、なかなか思うように予約が取れない。 <理系男子>
- 就職活動のスタートが2カ月遅れたことにより、大企業と中小企業の両方を見る時間が正直ない。様々な業界も見てみたいのに、その余裕もない。 <文系男子>
- 2月あたりから、会社の単独説明会が増えてきた。Uターン就職を考えているため、大学との行き来が激しくなっていてなかなか実験が進まない。 <理系女子>

■「とてもやさしい」「やややさしい」

- 今は面接などが始まっておらず、色々な企業のお話を説明会などで聞くことができるため、自分の知識も深まり楽しい。 <文系男子>
- 今ようやく自分の希望する業界が応募を受け付けだしたため、動き出せた感がある。わくわくしてきました!!!! <文系女子>
- これまでの経験で、面接で言えるネタがきちんとあるから大丈夫という確証のない自信がある。 <理系男子>
- あんまり企業に合わせてもしょうがなく、正直に志望動機を伝えれば、受かりたい企業には受かると思っています。 <文系男子>

《調査概要》

調査対象 : 2013年3月卒業予定の全国の大学3年生 (理系は大学院修士課程1年生含む)
 回答数 : 1,358人 (文系男子484人、文系女子379人、理系男子354人、理系女子141人)
 調査方法 : インターネット調査法
 調査期間 : 2012年2月1日~7日
 サンプルング : 日経就職ナビ2013 就職活動モニター

◆本資料に関するお問い合わせ先 : 03-5804-5567 / 株式会社ディスコ キャリアリサーチ

「日経就職ナビ 就職活動モニター調査」は、株式会社日経HRと株式会社ディスコが大学生の就職活動状況を調査することを目的として実施しています。日経就職ナビは株式会社日経HRが企画・管理を担当し、株式会社ディスコが運営事務局を務めています。